

『機械職 パーフェクト演習講座 材料力学』(KU12773) 訂正表

2016年03月16日現在

ページ	訂正箇所	訂正内容		掲載日
		誤	正	
P. 4	[No. 6] 問題文 1, 2行目	[No. 6] 図のように、長さ 100 cm、断面積 1 cm ² 、縦弾性係数 200 GPa の棒の両端 A、B に <u>10 kN</u> の軸方向荷重をそれぞれ作用させるとき、棒全体の伸びはおよそいくらか。	[No. 6] 図のように、長さ 100 cm、断面積 1 cm ² 、縦弾性係数 200 GPa の棒の両端 A、B に <u>10 kN</u> 、中間部の断面 C、D に <u>5kN</u> の軸方向荷重をそれぞれ作用させるとき、棒全体の伸びはおよそいくらか。	2016/3/16
P. 61	[No. 3] 解説文 3行目	C における壁の拘束をなくして考えると、水平作用させた力 P により AB 間は、フックの法則と応力とひずみの関係を用いると、 $\Delta l_{AB} = \frac{2lP}{\frac{\pi}{4} \times (2d)^2} = \frac{2lP}{\pi d^2 E}$	C における壁の拘束をなくして考えると、水平作用させた力 P により AB 間は、フックの法則と応力とひずみの関係を用いると、 $\Delta l_{AB} = \frac{2lP}{\frac{\pi}{4} \times (2d)^2 E} = \frac{2lP}{\pi d^2 E}$	2016/3/16
P. 72	[No. 28] 解説文 9行目	また、この中実軸にかかるトルク T は $T = 2.0 \times 10^3 (\text{N}) \times 0.3(\text{m}) \times 2$	また、この中実軸にかかるトルク T は $T = 2.0 \times 10^3 (\text{N}) \times 0.15(\text{m}) \times 2$	2016/3/16
P. 73	[No. 31] 解説文 2行目	中実丸棒と中空丸棒の極断面係数 Z_1, Z_2 は、 $Z_1 = \frac{\pi d_0^3}{16}, \quad Z_2 = \frac{\pi(d_1^4 - d_2^4)}{16d_1} = \frac{15\pi d_2^3}{32}$	中実丸棒と中空丸棒の極断面係数 Z_1, Z_2 は、 $Z_1 = \frac{\pi d_0^3}{16}, \quad Z_2 = \frac{\pi(d_1^4 - d_2^4)}{16d_1} = \frac{15\pi d_2^3}{32}$	2016/3/16
P. 75	[No. 38] 解説文 2行目	位置 x におけるモーメントは、この断面で切断した右側のモーメントのつり合いより、 $M(x) = \frac{1}{2} \left(\frac{Px}{l} \right) \times \frac{1}{3} x = \frac{Px^2}{6l}$	位置 x におけるモーメントは、この断面で切断した右側のモーメントのつり合いより、 $M(x) = \frac{1}{2} \left(\frac{Px}{l} \right) \times x \times \frac{1}{3} x = \frac{Px^3}{6l}$	2016/3/16
P. 85	[No. 61] 解説文 4行目	ここで、断面積は、奥行きが 1 cm なので、 <u>$2 \times 10^4 \text{ m}^2$</u> となるので、	ここで、断面積は、奥行きが 1 cm なので、 <u>$2 \times 10^{-4} \text{ m}^2$</u> となるので	2016/3/16
P. 93	[No. 15] 解説文 1行目	代表的なものにジュラルミンの名前で知られている <u>2024 合金</u> があげられる。	代表的なものにジュラルミンの名前で知られている <u>2017 合金</u> があげられる。	2016/3/16

※「掲載日」は、上掲訂正情報がLECホームページの『公務員 テキスト改訂・修正情報一覧』(<http://www.lec-jp.com/koumuin/kaitei>)に掲載された日付です。